

視覚特別支援学校の 地域支援活動の取り組み



<訪問相談:アイ・あいスクール>

- 本校の教育相談担当が向向いて行うサテライト式教育相談
- 視機能の障害だけでなく、読み書きの困難や目の使い方を心配しての相談もある
- 提供されている場所での相談だけでなく、学校に訪問したり、その日に小中学校をいくつか回ったりと市町によって形式は様々
- 保健師、指導主事、特別支援学校のコーディネーターなどの相談同席するケースが多い
- 宝塚市、西宮市、淡路市、姫路市、小野市、豊岡市、香美町、養父市、朝来市、西播磨地区(たつの市・宍粟市)
→担当窓口:各教育委員会
- 丹波市、多可町・佐用町・三木市
→担当窓口:役所が母体となり支援学校も関わっているところもある

<アイ・あいスクールの成果と課題>

<成果>

- 幼児～成人までの幅広い世代の相談に応じられた
- 視覚障害以外に、知的障害、肢体不自由、聴覚障害や発達障害などを合わせ有していることも多く、一人ひとりの障害の状態に応じた相談を進められた
- 全県にネットワークが広がり、視覚障害の掘り起こしが進んでいる
- 関連施設との連絡が密になり、保健師や指導主事などからの紹介が増えた
- 毎年の在籍者数増加につながっている

<課題>

- 実施地域が固定化し、広がりがあまりない
- 本校のこと紹介せず、自身で調べられた場合も多い
- 福祉や病院の窓口で本校を紹介してもらえるよう連携の輪を広げていく

<実践の中からの学び(担当者への聞き取り)>

- 待ちの姿勢では始まらない(相談を待っていても来ない、在籍児童は増えない)
- 着任した年に外へ出向いて、連携の輪を広げられた
→保健師の学校見学交流会の実施へ
- 全盲の方だとすぐにつながるができるが、弱視の方になるとそれが難しい→教育相談の充実を

<今後の展望>

- 相談件数の増加に伴い担当者の負担(スケジュールの過密)も大きくなるので、相談員の増員
- 計画的な次世代の育成
- 見え方に困難を抱える人が、困難を抱えたままでいることがないよう、教育相談の一層の充実
- 継続的な支援
- 関係機関との連携

<地域支援づくりへの提案>

- センターの機能を発揮するためにできること
学校として・・・人材の確保、増員、後継者の育成
個人として・・・相談担当者に限らず、さらなる専門性や資質の向上
 - 教育相談の充実(専任者)
 - 視覚特別支援学校の認知度を広げる、横のネットワーク
 - 本校だけにとらわれず、数少ない視覚支援学校との教材や支援方法、アイデアなどの共有化(支援者向けの使えるデータベース)
 - 困り感がある人の周りには必要ないことを相談・検索できるインターネット上の情報の充実
- 例: 相談や支援の窓口にはこういう場所がありますという一覧やチャート図